家庭医療専攻医

救急科ローテート到達目標

一般社団法人
日本プライマリ・ケア連合学会
Japan Primary Care Association

制作：日本プライマリ・ケア連合学会
専攻医部会

研修目標

①家庭医療専攻医が身につけるべき知識
・指導医の下で外科系、小児患者を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療の経験。
・バイタルサインや生命徴候（気道、呼吸、循環、意識の異常）から、患者の異常を適切に判断すること。
・急変に対して、直ちに安定化のための初期治療介入が出来ること。
・急変発生を他のスタッフに報告、周知し、高次医療機関や専門医への紹介の必要性の判断。

②家庭医療専攻医が身につけるべきスキル
〇初期治療介入におけるスキル
・気道の確保
用手気道確保、エアウェイ、声門上気道デバイス、気管挿管など。
・呼吸の管理
酸素投与（経鼻カニュラ、マスク、リザーバー付きマスク）、バッグバルブマスク（BVM）換気など。
・循環の管理
輸液路確保、輸液療法、循環作動薬の使用など。
〇心停止対応におけるスキル
・一次救命処置
絶え間ない胸骨圧迫、安全なAED操作、BVMを用いた換気。
・二次救命処置
エアウェイ、高度な気道確保器具、アドレナリン投与、原因検索のための検査（エコー、X線など）、チームマネジメント、蘇生記録。
〇小外科対応におけるスキル
・感染性粉瘤などに対する切開排膿や切創、裂創の縫合。
・骨折、捻挫に対するギプス固定や応急的なシーネ固定。

指導医の先生方にお願いしたいこと

・将来的に二次医療機関での病院総合医や、診療所において単独診療を行う可能性も踏まえ、外科系、小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の初期対応や、適切な判断が出来るような指導をお願いします。
・患者の急変時、スタッフを集めて初期治療介入を行い、症状の安定化を図り、高次医療機関や専門医に適切に紹介出来る技能を身につけることが望ましいと考えます。

研修する家庭医療専攻医がお役に立てると思われる場面の例

・軽症～中等症の救急疾患への対応
例）外来診療において、軽症～中等症患者の対応を行うことで、マンパワーが必要な業務負担を軽減することが出来る。
・地域サービスとの連続的なケア
例）救急受診をされた介護保険サービス利用のない患者を、地域包括支援センターといった必要な機関へ紹介し、地域と救急外来の橋渡し役となる事が出来る。

将来的に家庭医療専門医が目指していくこと

・軽症救急疾患への診療所での初期対応
小児科、外科系を含む軽症の救急疾患を診療所で診療することにより、救急外来の業務負担を軽減することが出来る。
・重症度に応じた適切な紹介
中等症以上の救急疾患を診療した際には、トリアージ、初期対応を行い、適切な高次医療機関や専門医へと紹介することで、地域の救急システムを最大限に活用することが出来る。